



ひきこもりでお悩みの方、
一緒に話してみませんか。
不登校・ひきこもりの家族会
「荒川たびたちの会」

「困っている事を吐き出す場所です」

荒川たびたちの会は、不登校・ひきこもりの当事者や家族を支援する場所です。

「8050問題」という言葉をご存知でしょうか。80代の親が50代の子どもの生活を支えるという問題です。背景にあるのは子どもの「ひきこもり」です。満40歳から満64歳までひきこもりの方の推計数は61.3万人です。（平成30年度 内閣府調査より）

ひきこもりは様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にならないうえに概ね家庭にとどまり続けている状態を指すと定義されています。ひきこもりの状態にある方やそのご家族の方はそれぞれ異なる経緯や事情を抱えています。生きづらさと孤立の中で日々葛藤しています。安心して生きていく場所、自らの役割を感じられる機会を得て積み重ねていくことが社

会とのつながりを回復することになります。

「寄り添ってくれる人との出会いで救われました」

自称「がきんちよ」さんは、家族との関係性の悪化から、ひきこもりとなった当事者です。神奈川県から、一人で荒川区に転居してきました。大家さんの寄り添い、支援の繋がりでゆっくりと立ち上がり、荒川たびたちの会の主軸となって活躍されています。

「子どもの気持ち理解できた。」

家族会である荒川たびたちの会には、当事者の方も参加されています。不登校の子どもへの対応で悩んでいるご家族が、学生時代の自分を客観的にみられるようになってきている30〜40代の当事者から、当時の気持ちを聴くことで、息子（娘）さんの気持ちに寄り添うことができるようになった方もいます。

「誰もがひきこもりになり得る」

今は、一旦レールから外れるとなかなか元に戻れない社会構造になっております。ひきこもりになる方は精神疾患を抱えた人たちもいますが、一方で職場の環境やいじめなどの人間関係の悪化などの社会的ストレスから自分を守る、命を守る自分の尊厳を守るためにひきこもらざるを得なくなっている人たちが多くいます。

「繋がりが救いとなる。」

橋から落ちると底のない沼から抜け出せずに日々苦しまれています。寄り添い、差し伸べる手があるとゆっくりと沼から橋に戻れます。大事なものは「学校に行くこと」や「仕事に就くこと」ではなく「生き方」を支えることです。

荒川たびたちの会は、繋がりの場です。同じような境遇の家族どうしでの対話や交流を通じて、一緒に前進する場所です。当事者や支援者も参加されるので、きっとヒントも見つかります。

月二回定例会があります。

・第四土曜日（ホッとステーションPM13時30分〜）

・第二木曜日（アクロスあらかわPM19時〜）

・参加費500円（ひきこもり当事者無料）

・定員15名

当事者の投稿冊子

「HIKIPOS（ひきぼす）」（定価500円）も購入できます。

尚、当事者の方の参加も増えているので、近々「当事者の会」も立ち上げる予定です。

お問合せ

荒川区社会福祉協議会 地域ネットワーク課
荒川ボランティアセンター
TEL：03-3802-3338 FAX：03-3802-3831（稲葉さん迄）
E-mail：vorasen@arakawa-shakyo.or.jp